

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-6	実施計画番号	7	事業開始年度	平成14年度
事務事業名	公園遊具の安全点検			事業終了年度	
担当課名	都市整備建築課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	職員による点検を月1回、専門業者による総合的な安全点検を年1回実施する。				
事務事業の目的	公園内遊具の定期的な安全点検を実施し、不具合や危険箇所等を早期に発見・修繕することにより安全性の確保を図る。				
実施状況	毎月1回の職員等による安全点検及び、年3回の専門業者による安全点検を行い異常を早期に発見し、適切な維持管理を行っている。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	9	9	9
期間業務職員	人件費(千円)	106	106	106

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	465	485	485

【指標】

活動指標	活動指標名①		職員等による都市公園遊具の安全点検			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回/年	12	12	12
	活動指標名②		専門業者による都市公園及び農村公園遊具の安全点検			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回/年	3	3	3
成果指標	成果指標名①		公園における事故発生件数			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		件	目標値	0	0	0
			実績値	0	0	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			目標値			
	実績値					
	達成度(%)					

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民から子供たちに安心安全な遊具の管理が求められている。都市公園は設置自治体の管理が義務付けられている。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	市民から子供たちに安心安全な遊具の管理が求められている。都市公園は設置自治体の管理が義務付けられている。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
市民から子供たちに安心安全な遊具の管理が求められている。都市公園は設置自治体の管理が義務付けられている。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">近年、職員等による毎月点検と専門業者による年3回の安全点検により遊具の事故は発生していない。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	近年、職員等による毎月点検と専門業者による年3回の安全点検により遊具の事故は発生していない。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	近年、職員等による毎月点検と専門業者による年3回の安全点検により遊具の事故は発生していない。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6					
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">遊具の修繕計画を策定するための専門業者による安全点検業務委託は極限までコストを削減している。また、直営作業員の点検は維持管理業務と調整しながら実施している。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	遊具の修繕計画を策定するための専門業者による安全点検業務委託は極限までコストを削減している。また、直営作業員の点検は維持管理業務と調整しながら実施している。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	遊具の修繕計画を策定するための専門業者による安全点検業務委託は極限までコストを削減している。また、直営作業員の点検は維持管理業務と調整しながら実施している。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">広く市民に開放されている都市公園のため受益に偏りは無い。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	広く市民に開放されている都市公園のため受益に偏りは無い。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
広く市民に開放されている都市公園のため受益に偏りは無い。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

公園内遊具の定期的な安全点検を実施し、不具合や危険箇所等を早期に見つけ、修繕することにより安全性の確保を図る。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。